Ⅱ　調 査 結 果 の 概 要

【発育状態】

１．身長

(1)　平成２４年度の身長（沖縄県平均値。以下同じ。）は、男子では７歳、９歳、１１歳及び１３歳の各年齢で前年度より高くなっている。
女子では、７歳、８歳、１１歳及び１２歳で前年度より高くなっている。（表１）

(2)　平成２４年度の身長を３０年前の昭和５７年度（親の世代）と比較すると、最も伸びの大きい年齢は男子では１２歳で、親の世代より２.５㎝高くなっている。
女子では９歳と１０歳で、親の世代より１.６㎝高くなっている。（表１）

(3)　性別では、年齢が進むにつれて男女の格差が大きくなっている。特に１４歳の平均値の差が大きい。（図１）

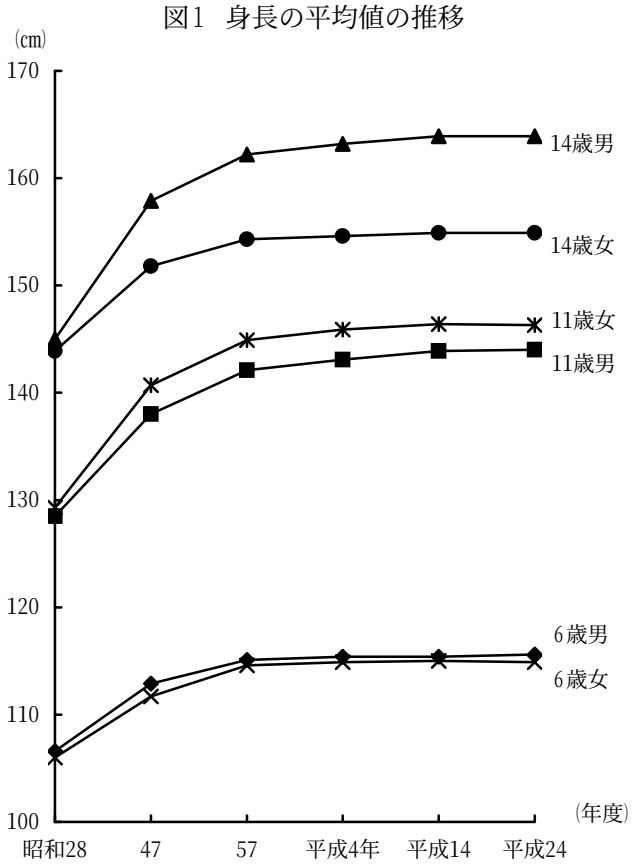
表1　年齢別　身長の平均値

(㎝)

区分			平成24年度 A	平成23年度	昭和57年度 B(親の世代)	差 A－B
男	小学校	6歳	115.6	115.6	115.1	0.5
		7歳	121.4	121.2	120.5	0.9
		8歳	126.9	127.0	125.6	1.3
		9歳	132.3	132.1	130.8	1.5
		10歳	137.6	137.6	136.2	1.4
		11歳	144.0	143.8	142.1	1.9
	中学校	12歳	151.6	151.7	149.1	2.5
		13歳	158.9	158.6	156.8	2.1
		14歳	163.9	163.9	162.2	1.7
女	小学校	6歳	114.9	114.9	114.6	0.3
		7歳	120.8	120.7	120.1	0.7
		8歳	126.7	126.6	125.5	1.2
		9歳	132.9	133.0	131.3	1.6
		10歳	139.8	139.9	138.2	1.6
		11歳	146.3	146.2	144.9	1.4
	中学校	12歳	151.0	150.9	149.9	1.1
		13歳	153.5	153.6	152.8	0.7
		14歳	154.9	154.9	154.3	0.6

（注）１．年齢は、各年４月１日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。
２．下線の部分は、調査実施以来最高を示す。以下の各表において同じ。

図1　身長の平均値の推移



(4)　１４歳（平成９年度生まれ）の年間発育量をみると、男子では１１歳、女子では９歳時に最大の発育量を示している。最大の発育量を示す年齢は、女子の方が男子に比べ、２歳早くなっている。

　また、この発育量を３０年前の昭和４２年度生まれ（親の世代）と比較すると、男子は発育量が最大となる時期が、親の世代と同じ歳となっており、７歳、９歳、１１歳で親の世代の発育量を上回っている。

　女子では発育量が最大となる時期は、９歳となっており、親の世代より１歳早い。７歳、９歳で親の世代の発育量を上回っている。（図２）

(5)　沖縄県の身長を全国（標本調査）と比較すると、男女とも全ての年齢で全国を下回っている。（図３）

図2　平成9年生まれと昭和42年生まれの者の年間発育量の比較（身長）

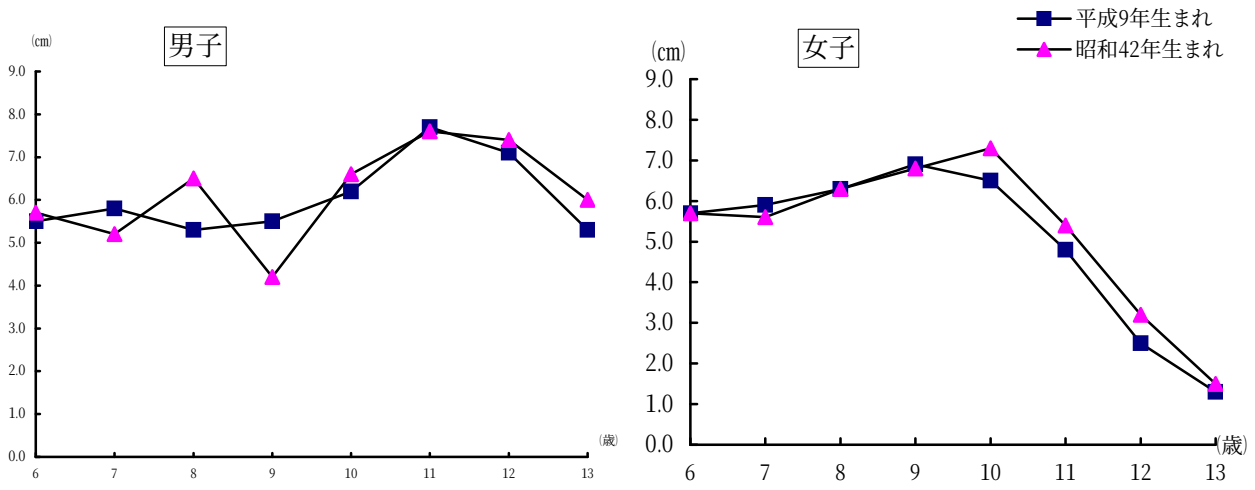
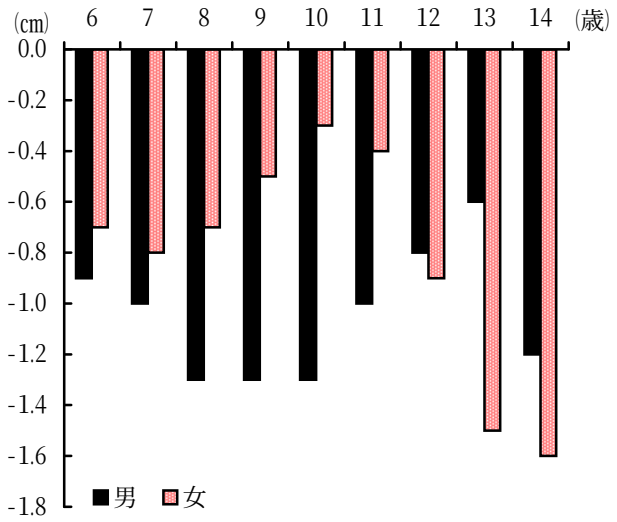


図3　身長の全国との差（平成24年度）



２．体重

(1)　平成２４年度の体重（沖縄県平均値。以下同じ。）は、男子では１４歳で前年度の同年齢より減っている。

女子は、８歳、１１歳、１３歳及び１４歳で前年度の同年齢より増えている。（表２）

(2)　平成２４年度の体重を３０年前の昭和５７年度（親の世代）と比較すると、最も差がある年齢は、男子では１３歳と１４歳で、親の世代より２.０ｋｇ重くなっている。

また、女子では１１歳で、親の世代より１.６ｋｇ重くなっている。

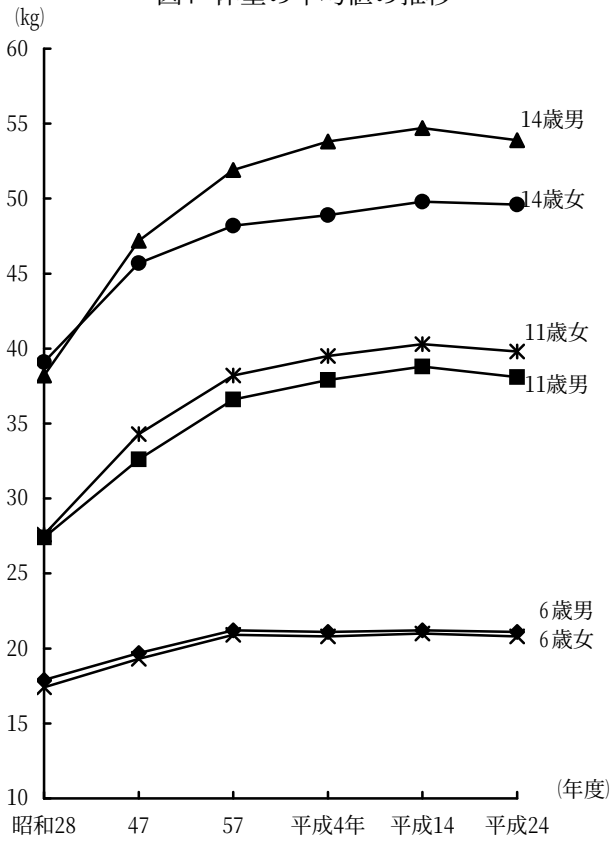
(3)　性別では、身長同様年齢が進むにつれて、男女の格差が大きくなっている。(図４)

表2　年齢別　体重の平均値

(kg)

区分			平成24年度 A	平成23年度	昭和57年度 B(親の世代)	差 A－B
男	小学校	6歳	21.1	21.1	21.2	-0.1
		7歳	23.8	23.6	23.5	0.3
		8歳	26.8	26.8	26.1	0.7
		9歳	30.3	30.2	29.2	1.1
		10歳	33.8	33.7	32.7	1.1
		11歳	38.1	37.9	36.6	1.5
	中学校	12歳	44.0	43.9	42.1	1.9
		13歳	49.2	49.0	47.2	2.0
		14歳	53.9	55.1	51.9	2.0
女	小学校	6歳	20.8	20.8	20.9	-0.1
		7歳	23.5	23.5	23.2	0.3
		8歳	26.6	26.4	25.8	0.8
		9歳	30.1	30.2	29.0	1.1
		10歳	34.7	35.0	33.4	1.3
		11歳	39.8	39.6	38.2	1.6
	中学校	12歳	44.3	44.3	43.1	1.2
		13歳	47.4	47.2	46.2	1.2
		14歳	49.6	49.4	48.2	1.4

図4　体重の平均値の推移



(4)　１４歳（平成９年度生まれ）の年間発育量をみると、男子では１１歳、女子では１０歳と１１歳の時に最大の発育量を示している。

　また、この発育量を３０年前の昭和４２年度生まれ（親の世代）と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は親の世代よりも１歳遅くなっており、６歳～８歳、１１歳時で親の世代の発育量を上回っている。

　女子では発育量が最大となる時期は、親の世代と同じであり、７歳～９歳時で親の世代の発育量を上回っている。（図５）

(5)　沖縄県の体重を全国（標本調査）と比較すると、男子は１２歳では差はないが、６歳～１１歳、１４歳で全国を下回り、１３歳では全国を上回っている。

　女子では、７歳と１３歳では差がないが、８歳～１２歳は全国を上回っており、６歳と１４歳では全国を下回っている。（図６）

図5　平成9年度生まれと昭和42年度生まれの者の年間発育量の比較（体重）

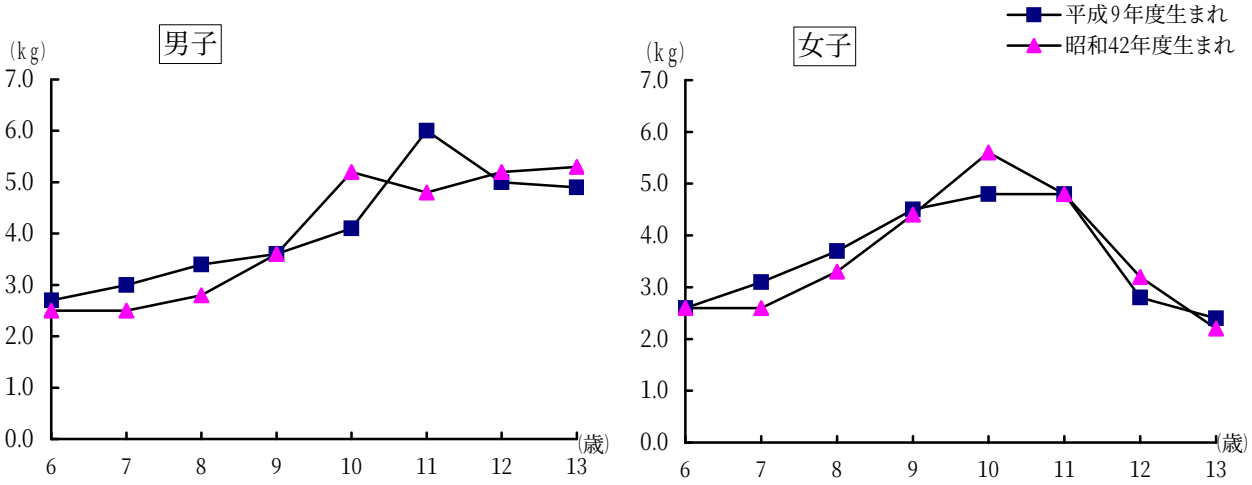
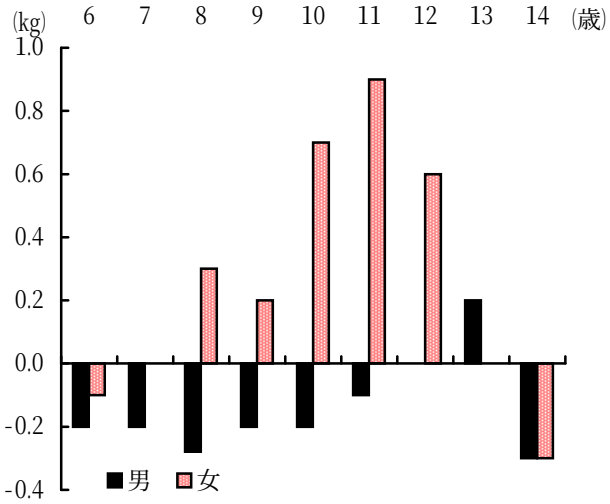


図6　体重の全国との差（平成24年度）



３．座高

(1)　平成２４年度の男子の座高（沖縄県平均値。以下同じ。）は、８歳、９歳及び１０歳で前年度と同じであり、その他はすべて前年度より高くなっている。
女子では、６歳、９歳及び１３歳で同じであり、１０歳と１４歳で前年度より低くなっている。

(2)　平成２４年度の座高を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は、男子は１２歳で、０.９ｃｍ高くなっている。
女子では、６歳で親の世代より０.５ｃｍ低くなっている。

表3　年齢別　座高の平均値

(cm)

区分			平成24年度 A	平成23年度	昭和57年度 B(親の世代)	差 A－B
男	小学校	6歳	64.5	64.4	64.9	-0.4
		7歳	67.1	67.0	67.3	-0.2
		8歳	69.6	69.6	69.7	-0.1
		9歳	71.9	71.9	71.8	0.1
		10歳	74.2	74.2	74.3	-0.1
		11歳	77.0	76.8	76.7	0.3
	中学校	12歳	81.0	80.9	80.1	0.9
		13歳	84.7	84.6	84.0	0.7
		14歳	87.7	87.5	87.1	0.6
女	小学校	6歳	64.1	64.1	64.6	-0.5
		7歳	66.9	66.8	67.1	-0.2
		8歳	69.6	69.4	69.6	0.0
		9歳	72.4	72.4	72.2	0.2
		10歳	75.7	75.8	75.5	0.2
		11歳	79.1	78.9	78.9	0.2
	中学校	12歳	81.8	81.7	81.9	-0.1
		13歳	83.2	83.2	83.5	-0.3
		14歳	84.1	84.7	84.4	-0.3

【健康状態】

1. 疾病･異常の被患率等別状況

疾病･異常を被患率等別にみると、「むし歯（う歯）」が最も高く、次いで「裸眼視力1．0未満の者」の順となっている。

表4　疾病･異常の被患率等

区　分		小学校	中学校
90%以上			
80%以上90%未満			
70 ～ 80		むし歯（う歯）(72.71)	むし歯（う歯）(72.8)
60 ～ 70			
50 ～ 60			
40 ～ 50			裸眼視力1.0未満の者(49.69)
30 ～ 40		裸眼視力1.0未満の者(33.78)	
20 ～ 30			
10 ～ 20			
1～10	8 ～ 10	鼻･副鼻腔疾患(8.23)	
	6 ～ 8		鼻･副鼻腔疾患(7.63)
	4 ～ 6	歯垢の状態(4.18)	歯垢の状態(5.98) 歯列･咬合(5.09) 歯肉の状態(4.98)
	2 ～ 4	耳疾患(3.72) 口腔咽喉頭疾患･異常(3.15) 歯列･咬合(3.04) 歯肉の状態(2.35) 寄生虫卵保有者(2.3)	口腔咽喉頭疾患･異常(3.02) 耳疾患(2.51)
	1 ～ 2	喘息(1.98) アトピー性皮膚炎(1.75) 栄養状態(1.67) その他の疾病･異常（1.19） その他の歯･口腔の疾病･異常(1.17)	蛋白検出者(1.75) 喘息(1.6) その他の疾病･異常（1.07） アトピー性皮膚炎(1.00)
0.1～1	0．5 ～ 1	眼の疾病及び異常(0.82) 難聴(0.81) その他の皮膚疾患(0.58) 蛋白検出の者(0.57)	栄養状態(0.84) 難聴(0.73) 眼の疾病及び異常(0.72) 結核(0.6) その他の歯･口腔の疾病･異常(0.56) 心臓疾患異常(0.53) 脊柱･胸郭(0.52)
	0．1 ～ 0．5	心臓疾患異常(0.45) 脊柱･胸郭(0.43) 言語障害(0.13)	顎関節(0.25) その他の皮膚疾患(0.24) 尿糖検出の者(0.11)
0．1%未満		腎臓疾患(0.08) 顎関節(0.05) 尿糖検出の者(0.03) 結核(0.0)	腎臓疾患(0.07) 言語障害(0.04)

2. 被患率の全国との比較

疾病･異常の被患率が全国と比較して小中学校ともに高いのは、「難聴」「口腔咽喉頭疾患･異常」「う歯」「歯垢の状態」「歯肉の状態」となっている。

「裸眼視力1.0未満」「栄養状態」「脊柱･胸郭」については、本県の小学校は全国より占める割合が高いが、中学校は低い傾向にある。全国より低い被患率には、小中学校ともに「眼の疾病及び異常」「耳疾患」「鼻･副鼻腔疾患」等がある。

表5　疾病･異常の被患率の全国との比較　(%)

区　　分	小学校				中学校			
	男		女		男		女	
	沖縄	全国	沖縄	全国	沖縄	全国	沖縄	全国
裸眼視力1.0未満	29.93	27.42	37.85	34.09	44.98	50.33	54.65	58.70
0.7以上～1.0未満	9.66	9.76	11.45	11.66	8.45	10.45	8.71	11.13
0.3以上～0.7未満	10.12	10.30	12.88	12.58	14.13	16.60	15.06	16.38
0.3未満	10.15	7.37	13.52	9.85	22.41	23.28	30.89	31.18
眼の疾病及び異常	1.00	5.81	0.64	5.04	0.90	5.11	0.54	4.22
難聴	0.71	0.48	0.91	0.58	0.53	0.30	0.93	0.35
耳疾患	3.91	5.60	3.52	5.17	2.57	4.37	2.45	2.84
鼻･副鼻腔疾患	9.92	15.04	6.45	9.20	8.96	13.06	6.24	9.65
口腔咽喉頭疾患･異常	3.35	1.39	2.93	1.14	3.42	0.73	2.60	0.66
う歯	73.96	57.44	71.38	54.01	71.23	44.56	74.46	46.83
歯列･咬合	3.01	4.11	3.07	4.70	4.99	4.53	5.19	4.97
顎関節	0.06	0.09	0.04	0.11	0.21	0.36	0.28	0.46
歯垢の状態	4.84	3.72	3.48	2.73	7.47	5.85	4.42	3.78
歯肉の状態	2.66	2.32	2.03	1.81	6.03	5.24	3.87	3.23
結核	―	0.00	―	0.00	0.60	0.00	0.61	0.00
蛋白検出者	0.34	0.53	0.81	0.98	2.02	2.86	1.45	2.13
寄生虫卵保有者	2.72	0.24	1.85	0.17	―	…	―	…
栄養状態	1.93	1.77	1.39	1.16	0.83	1.26	0.86	0.98
脊柱･胸郭	0.46	0.33	0.40	0.39	0.56	0.60	0.47	1.02
アトピー性皮膚炎	1.92	3.56	1.58	2.92	0.98	2.62	1.02	2.32
心臓の疾病･異常	0.47	0.73	0.44	0.68	0.51	0.89	0.55	0.80
ぜん息	2.32	5.09	1.62	3.30	1.91	3.54	1.28	2.34
腎臓疾患	0.09	0.16	0.08	0.16	0.08	0.20	0.06	0.20
言語障害	0.17	0.43	0.09	0.23	0.05	0.09	0.02	0.05
その他の疾病･異常	1.23	2.70	1.14	1.93	0.81	2.16	1.33	2.22

(注) 1. 全国は文部科学省平成24年度学校保健統計調査速報(標本調査)による。
2.「―」は該当がいない場合
3.「…」は調査対象とならなかった場合

３．主な疾病・異常等の推移

(1)　裸眼視力１．０未満

平成２４年度の「裸眼視力１．０未満」の者の割合は、前年度に比べると、小学校は、男女ともに増加している。また中学校でも同じく男女とも増加となっている。

この割合を年齢別（図８）にみると、男女とも年齢が進むにつれて高くなる傾向にある。

図7　裸眼視力1.0未満の者の推移

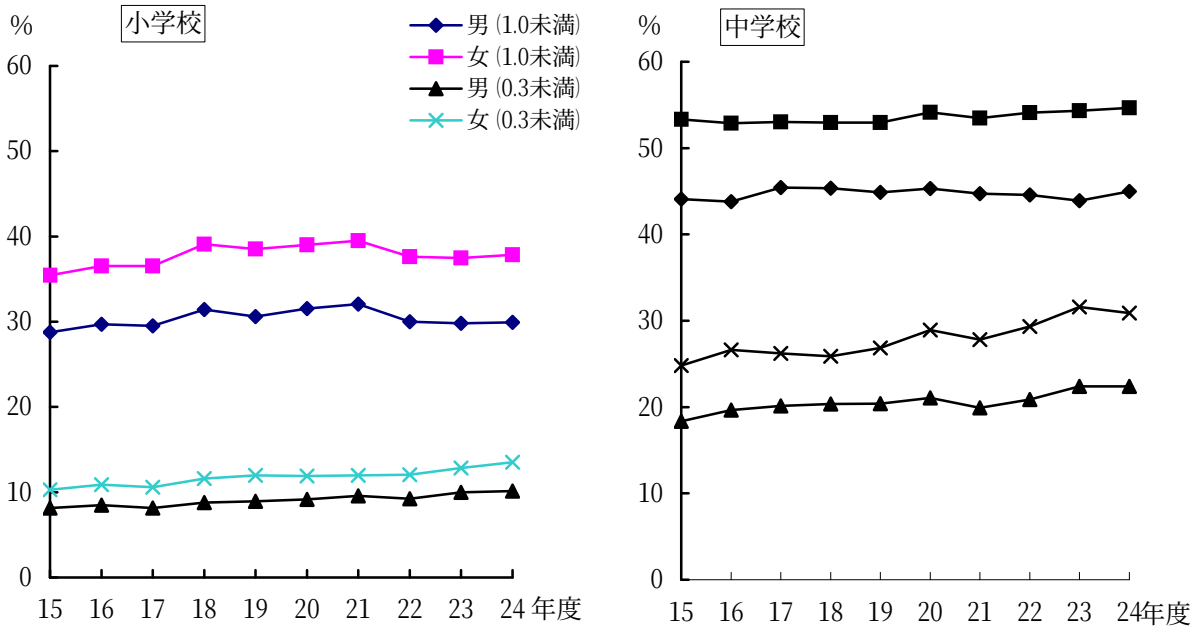
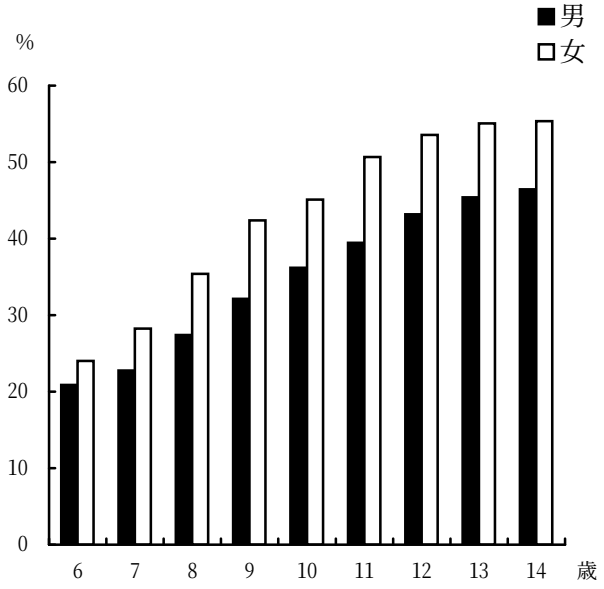


図8　年齢別　裸眼視力1.0未満の者



(2)　う歯（むし歯）

平成２４年度の「う歯（むし歯）」の被患率は、男女とも前年度より減少している。
「う歯（むし歯）」の被患率の推移をみると、この数年間は低下傾向にある。（表６）

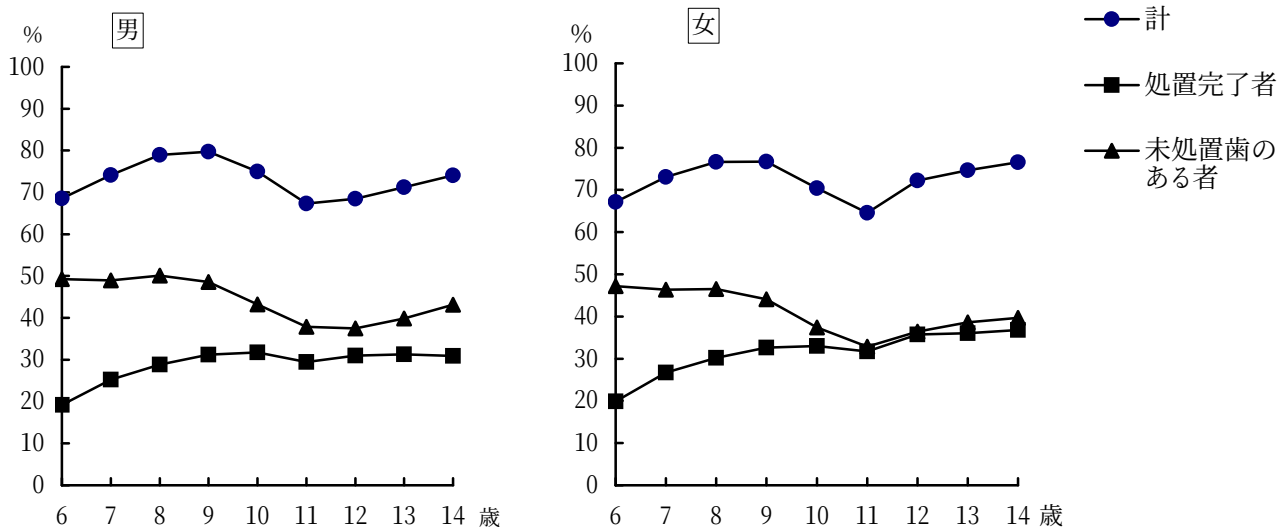
「う歯（むし歯）」の被患率を年齢別にみると、男女ともに９歳が最も高く、男子が７９．７５％、女子は７６．６８％となっている。

表6　う歯（むし歯）の被患率（処置完了者等の割合）の推移

（%）

区分			平成１２年	平成１５年	平成１８年	平成２１年	平成２３年	平成２４年
男	小学校	計	90.96	87.29	84.86	80.20	76.18	73.96
		処置完了者	27.80	27.53	27.03	28.70	27.76	27.69
		未処置歯のある者	63.17	59.76	57.82	51.50	48.41	46.27
	中学校	計	91.32	87.58	81.61	75.98	72.90	71.23
		処置完了者	33.10	31.37	28.58	30.99	31.24	31.08
		未処置歯のある者	58.22	56.20	53.02	44.99	41.66	40.14
女	小学校	計	90.42	86.49	83.20	78.11	73.49	71.38
		処置完了者	30.92	31.12	28.83	30.18	29.15	29.11
		未処置歯のある者	59.51	55.37	54.37	47.93	44.34	42.27
	中学校	計	93.55	89.90	84.33	79.58	75.75	74.46
		処置完了者	36.83	35.48	32.14	34.74	36.13	36.20
		未処置歯のある者	56.71	54.42	52.19	44.85	39.62	38.26

図9　むし歯（う歯）の処置完了者等の割合



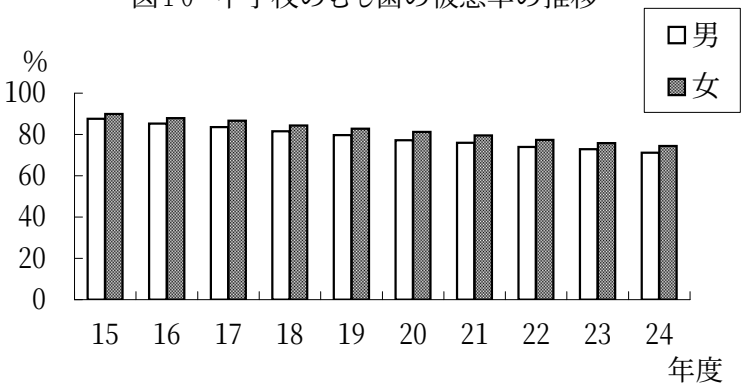
(3)　１２歳の永久歯の一人あたり平均むし歯（う歯）等数

１２歳の永久歯の一人当たり平均むし歯等（喪失歯及びむし歯）数をみると、「喪失歯数」は男女ともに前年度より減少している。「むし歯数」も、男女ともに減少傾向である。

表7　12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数

区分			平成22	平成23	平成24
男	計		2.45	2.34	2.21
	喪失歯数		0.02	0.03	0.02
	むし歯(う歯)	計	2.43	2.31	2.19
		処置歯数	1.38	1.31	1.23
		未処置歯数	1.05	1.00	0.96
女	計		2.85	2.64	2.53
	喪失歯数		0.02	0.04	0.03
	むし歯(う歯)	計	2.83	2.60	2.50
		処置歯数	1.71	1.59	1.54
		未処置歯数	1.12	1.01	0.96

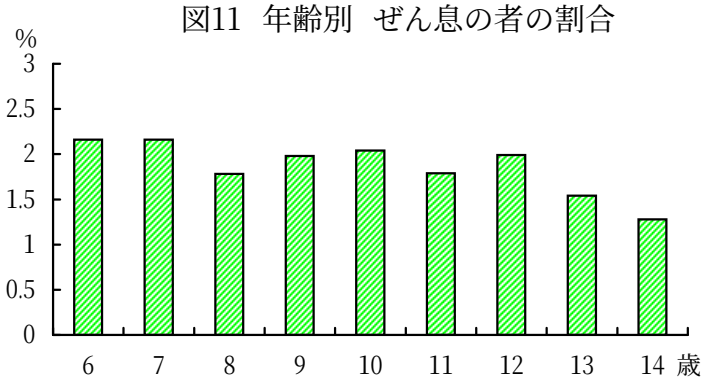
図10　中学校のむし歯の被患率の推移



(4)　ぜん息

平成２４年度の「ぜん息」の被患率は、小学校１．９９%、中学校１．６０%となっている。
年齢別にみると、各年齢で１%を越えており、６歳と７歳が２．１６%と最も高くなっている。

図11　年齢別　ぜん息の者の割合



年齢別	被患率
6	2.16
7	2.16
8	1.78
9	1.98
10	2.04
11	1.79
小学校平均	1.99
12	1.99
13	1.54
14	1.28
中学校平均	1.60

(5) 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子では全国で１２歳、１５歳～１７歳、沖縄では８歳、９歳、１１歳、１２歳、１４歳～１６歳が１０％を超えており、全国、沖縄ともに１５歳が最も高くなっている。また、女子では沖縄で１０歳～１４歳が１０％を超えており、全国が１２歳、沖縄では１１歳が最も高い出現率となっている。

痩身傾向児の出現率は、男子では全国で８歳～１７歳、沖縄で８歳～１３歳、１５歳～１７歳で１％を超えており、全国で１１歳、沖縄で１０歳が最も高くなっている。

女子では全国で１２歳、沖縄で１５歳が最も高くなっている。（表８）

＊都道府県別一覧表については、P７０～P７３参照

表８　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率　（%）

区分		男				女			
		肥満傾向児		痩身傾向児		肥満傾向児		痩身傾向児	
		沖縄	全国	沖縄	全国	沖縄	全国	沖縄	全国
幼稚園	５歳	3.80	2.41	0.07	0.36	3.49	2.36	0.28	0.35
小学校	６歳	3.72	4.09	0.30	0.27	4.11	4.37	0.22	0.57
	７歳	7.32	5.58	－	0.49	8.59	5.23	0.39	0.60
	８歳	10.26	7.13	1.30	1.06	8.28	6.09	2.10	1.16
	９歳	11.11	9.24	1.63	1.44	9.76	7.23	1.27	1.85
	１０歳	9.75	9.86	2.57	2.49	10.02	7.73	2.64	2.61
	１１歳	10.85	9.98	1.36	3.38	13.00	8.61	1.45	3.12
中学校	１２歳	13.03	10.67	1.60	2.40	10.60	8.64	1.93	4.18
	１３歳	7.53	8.96	2.02	1.66	10.80	7.90	2.30	3.64
	１４歳	10.82	8.43	0.25	1.79	10.46	7.36	1.15	3.22
高等学校	１５歳	13.96	11.41	2.50	2.35	9.11	8.51	3.38	2.43
	１６歳	11.66	10.25	1.53	1.89	7.79	7.74	2.41	2.12
	１７歳	7.91	10.91	1.58	1.64	8.98	8.18	2.70	1.85

（注）　文部科学省平成２４年度学校保健統計調査速報（標本調査）による。

※肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率について

文部科学省学校保健統計調査（標本調査）では、平成１７年度までは、性別・年齢別に身長別平均体重を求め、その平均体重の１２０%以上の者を肥満傾向児、８０%以下の者を痩身傾向児としていたが、平成１８年度からは、性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が２０%以上の者を肥満傾向児、－２０%以下の者を痩身傾向児としている。

肥満度の求め方は以下のとおりである。

肥満度（過体重度）

＝〔実測体重（ｋｇ）－身長別標準体重（ｋｇ）〕／身長別標準体重（ｋｇ）×100（%）

＊ 身長別標準体重（ｋｇ）＝ａ×実測身長（cm ）－ｂ

係数／年齢	男		女	
	a	b	a	b
5	0.386	23.699	0.377	22.750
6	0.461	32.382	0.458	32.079
7	0.513	38.878	0.508	38.367
8	0.592	48.804	0.561	45.006
9	0.687	61.390	0.652	56.992
10	0.752	70.461	0.730	68.091
11	0.782	75.106	0.803	78.846
12	0.783	75.642	0.796	76.934
13	0.815	81.348	0.655	54.234
14	0.832	83.695	0.594	43.264
15	0.766	70.989	0.560	37.002
16	0.656	51.822	0.578	39.057
17	0.672	53.642	0.598	42.339